

dji MIC 3

ユーザーマニュアル

v1.0 2025.8





本書は、DJI の著作物であり、すべての権利は DJI に帰属します。DJI から別途許可されていない限り、本書の複製、譲渡、販売を行ったり、本書または本書の一部を使用、または他の人に使用を許可したりすることはできません。ユーザーは、本書とその内容を DJI 製品の操作に関する指示を参照する目的にのみ使用してください。本書を他の目的で使用しないでください。言語版によって相違がある場合には、英語版が優先されます。

キーワードの検索

「バッテリー」や「取り付け」などのキーワードを検索することでトピックを探することができます。Adobe Acrobat Reader を使用して本書をお読みの場合、Windows では Ctrl+F、Mac では Command+F を押して検索を開始できます。

任意のトピックに移動

目次の全トピック一覧が表示されます。トピックをクリックすると、そのセクションに移動します。

本書を印刷する

本書は高解像度印刷に対応しています。

本マニュアルの使用方法

凡例

 重要

 ヒントとコツ

 参考

ご使用前にお読みください

DJI™は、チュートリアルビデオと次のドキュメントをご用意しています。

1. 『安全ガイドライン』
2. 『クイックスタートガイド』
3. 『ユーザーマニュアル』

すべてのチュートリアルビデオの視聴をお勧めします。初回使用前に、『安全に関するガイドライン』をお読みください。初めて使用する前に、必ず『クイックスタートガイド』を確認し、詳細について『ユーザーマニュアル』を参照してください。

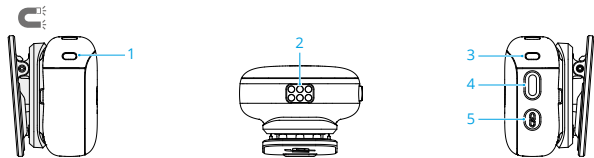
目次

本マニュアルの使用方法	3
凡例	3
ご使用前にお読みください	3
1 製品の特徴	6
1.1 トランスミッター（TX）	6
1.2 レシーバー（RX）	7
1.3 充電ケース	8
2 本製品の使用	11
2.1 タッチ画面	11
ホーム画面	11
下にスワイプ：操作メニュー	12
上へスワイプ - トランスミッターコントロールインターフェース	16
2.2 ダイアルでのクイックアクション	17
2.3 ウィンドスクリーン（風防）の取り付け	18
2.4 トランスミッターの装着	18
2.5 トランスミッターとレシーバーのリンク	19
基本リンク操作	19
充電ケースを使用したリンク	19
手作業でのリンク	20
グループリンク	20
2.6 スマートフォンとの併用	21
2.7 カメラとの併用	22
2.8 パソコンとの併用	24
2.9 トランスミッターを DJI 撮影デバイスに直接接続する	24
2.10 ストレージ	25
3 ファームウェア更新およびパラメーター調整	27
3.1 DJI Mimo アプリへの接続	27
アダプター経由で接続	27
Wi-Fi 経由の接続	27
3.2 パラメーターの調整	28
3.3 ファームウェアの更新	28
4 付録	30
4.1 仕様	30
4.2 アフターサービス情報	30

製品の特徴

1 製品の特徴

1.1 トランスミッター (TX)



1. 録音ステータス LED

	—	赤色点灯	トランスミッターは単独で録音しています ^[1]
		赤色にゆっくり点滅	トランスミッター ミュート

[1] 音声はトランスミッターの内蔵ストレージに保存されます（以下「内部録音」と呼びます）。

2. 充電接点

3. システム ステータス LED

バッテリー残量			
	—	赤色点灯	10%以下
	—	緑色 / 青色点灯 ^[1]	10%超
リンク / 接続状況			
	—	緑色点灯	レシーバーとリンクされました
		ゆっくりと緑色点滅	受信機なし
	—	青色点灯	Bluetooth デバイスに接続済み
		ゆっくりした青色点滅	Bluetooth デバイスなし
	—	水色点灯	DJI Mimo アプリへの接続
		青色と緑色に交互に点滅	接続中
充電中のバッテリー残量 ^[1]			
		ゆっくりと緑色 / 青色点滅	0～25%
	× 2	緑色 / 青色 2 回点滅	26～50%
	× 3	緑色 / 青色 3 回点滅	51～75%
	× 4	緑色 / 青色 4 回点滅	76～100%

◎ オフ 充電完了^[2]

その他のステータス

 —	黄色点灯	ノイズキャンセル有効
 ……	赤色と緑色に交互に点滅	ファームウェア更新中

[1] ライトの色は、無線作業モードによって異なります。緑色のライトを例とします。

[2] 充電が完了すると、LED は 1 分間点灯し、その後消灯します。

4. 電源ボタン

2 秒間長押しすると、電源がオン/オフになります。

押すと内部録画が開始/停止されます。

2 回押すと、ノイズ低減が有効または無効になります。

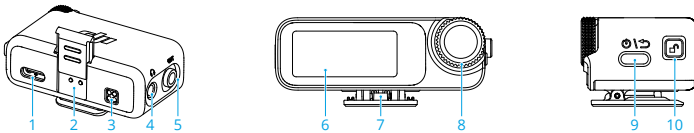
5. リンクボタン

2 秒間長押しすると、リンクが開始されます。

2 回押すと、無線作業モードを切り替えます。

マイクを DJI 撮影機材に接続した後、押すと、動画の撮影を開始または停止します。

1.2 レシーバー (RX)



1. USB-C ポート

2. 拡張ポート

スマートフォンアダプターとの接続に使用します。

3. 充電接点

4. モニターポート

3.5 mm ヘッドフォンを接続して、トランスミッターの音質をモニターします。

5. 出力ポート

カメラへの音声出力用です。

6. タッチ画面

7. バッククリップ

8. **ダイヤル**

デバイスの便利な操作とパラメーター調整のために。詳細については[ダイヤルでのクイックアクション](#)参照してください。

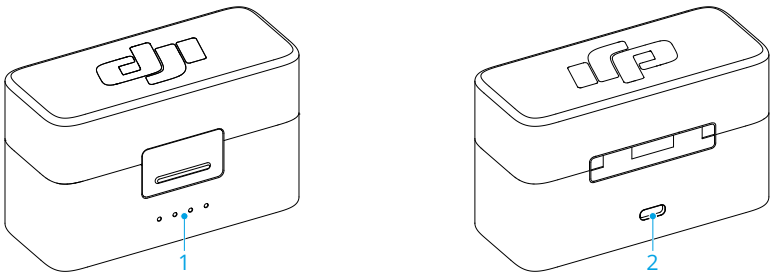
9. **電源ボタン**

長押しすると、電源をオン/オフします。
レシーバー画面がホーム画面でない場合、を押して前のページに戻ります。

10. **リリースボタン**

拡張ポートからスライディングカバーまたはアダプターを取り外すには、押し続けます。

1.3 充電ケース



1. **バッテリー残量 LED**

- LED が点灯
- ◉ LED 点滅
- LED 消灯

充電中のバッテリー残量（LED が順番に点滅）	
● ● ● ●	76~99%
● ● ● ○	51~75%
● ● ○ ○	26~50%
● ○ ○ ○	≤ 25%
○ ○ ○ ○	充電完了
バッテリー残量	

	76~100%
	51~75%
	26~50%
	10~25%
	< 10%
ファームウェアの更新（LED が同時に点滅）	
	ファームウェア更新中

2. USB-C ポート

充電または内部録音のコピー用。

-  バッテリーを良好な状態に保つために、少なくとも 3 カ月に 1 回はバッテリーを完全に充電してください。バッテリーを長期間使用しないと、バッテリーの性能に影響が出たり、バッテリーが永久的な損傷を引き起こす場合があります。

本製品の使用

2 本製品の使用

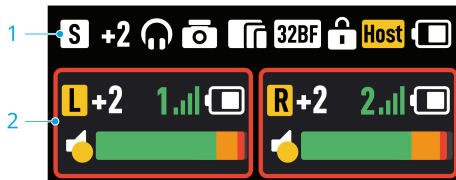
2.1 タッチ画面

初めて使用する際には、言語と時間の設定が必要です。より良い無線体験のために、画面上の QR コードをスキャンして DJI Mimo アプリをダウンロードすることをお勧めします。

ホーム画面

レシーバーのタッチスクリーンディスプレイは、異なるデバイスに接続されたときに異なる場合があります。

以下は、2 つのトランスミッターが接続されたときの参考ディスプレイを示しています。



1. レシーバーステータスバー

S	現在のチャンネルモード
+2	レシーバーゲイン
	ヘッドフォン接続済み
	画面ロック中
	カメラアダプター接続済み
	電話／コンピューター接続済み
32BF	32 ビット浮動小数点録音有効
ATC	タイムコードは A-OUT に設定された出力タイプで有効 出力タイプが L-OUT の場合、LTC が表示されます。L-IN または該当なしに設定されている場合、TC が表示されます。

	レシーバーがマルチデバイスグループに参加し、メインレシーバーです。
	レシーバーがマルチデバイスグループに参加し、セカンダリレシーバーです。
	レシーバーバッテリー残量

2. トランスミッターステータスバー

	L/R チャンネル クアドラフォニックモードで CH1 / CH2 / CH3 / CH4 を表示
	トランスミッターゲイン
	トランスミッターとレシーバー間の信号強度
	トランスミッターバッテリー残量
	フレーム付きトランスミッターは単独で録音しています。
	ノイズキャンセル有効

下にスワイプ：操作メニュー



コントロールメニューでは、デバイスをリンクし、レシーバーを DJI Mimo アプリに接続し、タイムコードを設定できます。**トランスミッター設定**または**レシーバー設定**をタップして、さらに多くのパラメーターを構成します。

以下は、さらに説明が必要な場合がある特定の機能の説明です。

タイムコード

タイムコードは、音声と動画を同期するために使用される時間マーカーです。

サポートされているタイムコードモード

- マスター実行：メイン RX タイムコードはデフォルトでマスター実行に設定され、グループ内および外部デバイスとのタイムコードの生成と同期を管理します。
- オートジャム：セカンダリ RX タイムコードはデフォルトでオートジャムに設定され、メイン RX からタイムコードとフレームレートを受信して外部デバイスと整合することで定期的に同期します。

一般的な動画フレームレートがサポートされており、デフォルトでは 29.97 fps に設定されています。すべての録画デバイスが録画中に同一のフレームレートを維持することを確認してください。

タイムコード出力タイプ

- なし：受信機は内部でタイムコードを実行しますが、外部には出力しません。
- L-IN：外部タイムコードジェネレーターから受信機にタイムコードを同期するために使用されます。



- 受信機が外部デバイスからタイムコードを受信すると、画面の右上に EXT が表示されます。
- タップしてタイムコードを他のデバイスに同期します。タップすると、タイムコードがリセットされます。

- L-OUT：受信機は Linear Timecode (LTC) 形式で外部にタイムコードを出力します。
- A-OUT:レシーバーは、オーディオタイムコード (Audio-TC/ATC) 形式で外部にタイムコードを出力します。

詳細な手順については、リンクをクリックするか QR コードをスキャンして、チュートリアル動画 DJI Mic 3 | タイムコードをご覧ください。



<https://www.dji.com/mic-3/video>

アプリに接続

アプリ接続モードに入るにはタップします。

詳細な手順については、リンクをクリックするか QR コードをスキャンして、チュートリアル動画 DJI Mic 3 | パラメーター調整とファームウェア更新をご覧ください。



<https://www.dji.com/mic-3/video>

レシーバー (RX) 設定



- モノラル

ステレオまたはクアドラフォニックに切り替えるにはタップします。

クアドラフォニックモードでは、4つのトランスミッターが同時に動作し、それぞれが専用のオーディオトラックに割り当てられるため、ポストプロダクション編集がスムーズになります。

-
- ☞ クアドラフォニックモードは、特定の PC ソフトウェアおよび DJI Mic シリーズカメラアダプターとのみ互換性があります。詳細については、公式ウェブサイトの互換性リストを参照してください。
 - DJI Mic シリーズカメラアダプターは、MI ホットシューを備えたソニーのカメラにのみ対応しています。
-

• 音声モニタリング

モニターソースを選択し、音量を調整するにはタップします。

• ゲイン

ゲインスライダーを開き、スライダーを動かして受信機の出力ゲインを調整するにはタップします。

音が露出オーバーの場合は、まず受信機のゲインを下げてください。

• ロスレスオーディオ

ロスレスオーディオモードが有効になると、トランスミッターは 48 kHz 24 ビットの非圧縮オーディオを受信機に送信し、より高い音質を保証します。

• カメラに併せて自動オン/オフ

有効にすると、受信機はカメラアダプターまたは 3.5 mm オーディオケーブルを介してカメラに接続されている場合、カメラと共に自動的に電源がオン・オフされます。

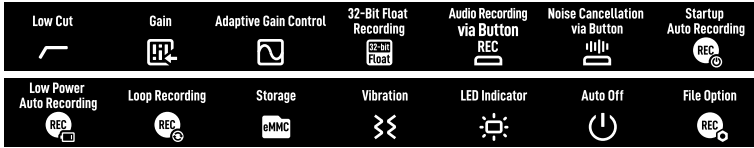
• 自動オフ

受信機が電源オン後 15 分以内にトランスミッターとリンクされていない場合、受信機は自動的に電源がオフになります。

• 環境

屋内モードと屋外モードはどちらも、2.4 GHz 帯と 5GHz 帯間での自動周波数ホッピングに対応しています。しかし、環境によっては、それぞれのモードで利用できる動作周波数帯が異なります。屋内モードでは、より広い周波数帯を利用でき、より強力な耐干渉性能を提供します。ただし、特定の国や地域では、現地の法律および規制により、屋内のみにおいて使用可能な 5GHz 帯があります。現地の法律・規制、および実際の屋内または屋外環境に基づいて、適切なモードを選択してください。（日本国内では、両モードで、5.8 GHz 帯は使用できません）

トランスミッター（TX）の設定



- ローカット

有効にすると、トランスミッターは 100 Hz 以下の周波数をカットし、低周波ノイズを減少させ、よりクリアな録音を実現します。

- ゲイン

タップすると、リアルタイムでの音量に応じてトランスミッターの入力ゲインを調整できます。

レベルバーが赤くなったらゲインを減少させ、オーディオの歪みやクリッピングを防ぎます。

- 適応ゲイン制御

自動モード：音量の変動が激しい環境に最適です。音量の変動をスムーズに処理し、突然のスパイクを抑制して、バランスの取れた一貫したオーディオ出力を保証します。

ダイナミックモード：入力レベルの変化に基づいてオーディオ出力のダイナミックレンジを自動的に調整し、必要に応じてゲインを増減させることで、入力が低すぎるまたは高すぎる場合を補正します。スタジオのような静かな屋内環境に最適です。

- 32-bit フロート録音

有効にすると、トランスミッターは音声ファイルを 32 ビットフロートで単独で録音できます。そのため、撮影後のオーディオ修正でより広いダイナミックレンジが可能になります。

 32 ビットフロート録音が有効になっている場合、トランスミッターの録音時間が短くなることに注意してください。

- ボタンによる音声録音

有効にすると、伝送電力ボタンを押すことで内部録音を開始または停止できます。

- ボタンでノイズキャンセリング

有効にすると、伝送電力ボタンを 2 回押すことでノイズキャンセリングを有効または無効にできます。

- 起動時自動録画

有効にすると、トランスミッターは電源を入れると自動的に内部録音を開始します。

- 低電力自動録画

有効にすると、接続された受信機またはデバイス/カメラのバッテリーが少ない場合、トランスミッターは自動的に内部録音を開始します。

- **ループ撮影**

有効にすると、システムは内部録音中に一定間隔で録音ファイルを自動的に分割し、ストレージがいっぱいになると既存のファイルを上書きします。

- **自動オフ**

有効にすると、トランスミッターはどのデバイスにも接続されておらず、内部録音が有効になっていない場合、15 分間使用されないと自動的にシャットダウンします。

- **ファイルオプション**

ファイルタイプをデュアルファイル内部録音に設定して、元の音声ファイルを保持しながら有効なオーディオアルゴリズムを統合し、追加の処理を必要とせずにポストプロダクションの使用を簡素化します。

上へスワイプ - トランスミッターコントロールインターフェース

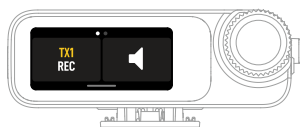
マルチトランスミッターコントロール

レシーバーがメインレシーバーとしてグループに参加している場合、ホーム画面で上へスワイプして、グループ内のすべてのトランスミッターを同時に制御し、内部録音やノイズキャンセリングを開始します。



シングルトランスミッターコントロール

トランスミッターのステータスバーをタップして、そのトランスミッター専用のコントロールインターフェースにアクセスし、内部録音やミュートなどの機能を有効にします。



2.2 ダイヤルでのクイックアクション

受信機の電源が入っているとき、ダイヤルを 2 秒間押し続けると画面をロックまたは解除します。

ホーム画面にいるとき

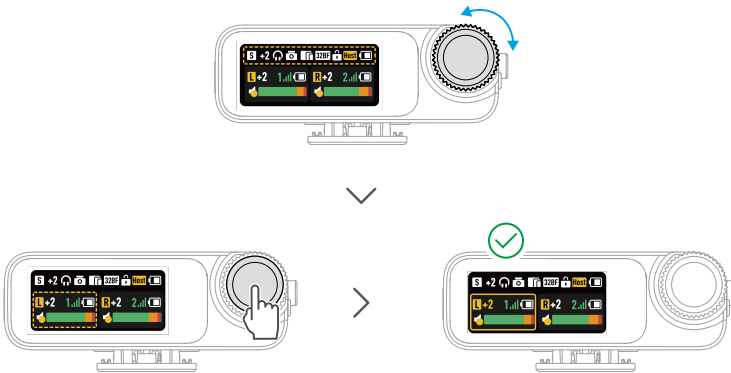
ダイヤルを 2 回押してコントロールメニューに入ります。

ダイヤルを押してエリア選択をトリガーします。

- 💡 5 秒以内に操作が行われない場合、破線のボックスは消えます。
- 受信機の電源ボタンを押すか、画面に触れてダイヤルの破線ボックス選択を終了します。



このインタラクションモードでは、ダイヤルを回してエリアを切り替え、ダイヤルを押して確認します。



受信機またはトランスミッターのステータスバーが選択されると、ダイヤルを回してゲインを調整します。

受信機のステータスバーに破線のボックスが表示されたら、ダイヤルを 2 回押してマルチトランスミッターコントロールインターフェースに入ります。

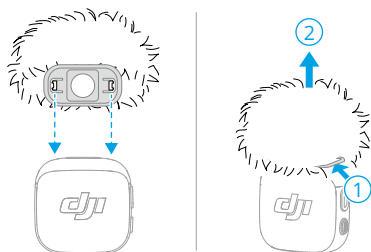


破線のボックスがトランスミッターのステータスバーにあるとき、ダイヤルを 2 回押して単一トランスミッター制御インターフェースに入ります。



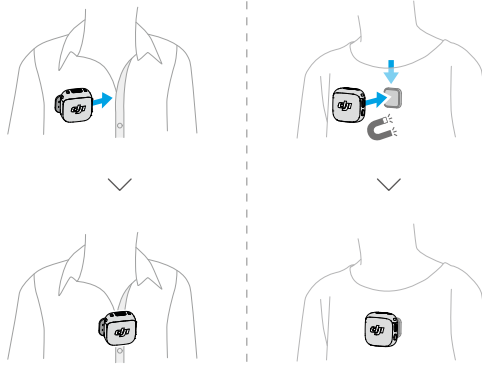
2.3 ウィンドスクリーン（風防）の取り付け

屋外や風の強い環境では、ウィンドスクリーン（風防）を使用することで、風切り音を軽減し、音質を向上させます。



2.4 トランスミッターの装着

トランスミッターはクリップと磁石を使用して衣服に取り付けることができます。



- 💡 磁気クリップは取り外し可能で回転するデザインを特徴としており、トランスミッターを側面にクリップしたり逆さにしたりすることで、音源に直接向けることができ、音質が向上します。

2.5 トランスミッターとレシーバーのリンク

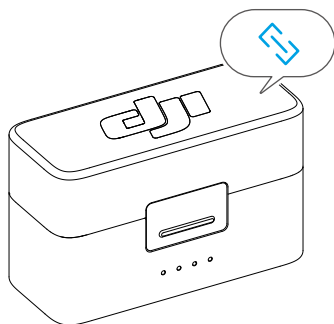
コンボのトランスミッターとレシーバーは、デフォルトでリンク済みです。トランスミッターとレシーバーのリンクが解除された場合は、以下の手順に従ってリンクしてください。

基本リンク操作

充電ケースを使用したリンク

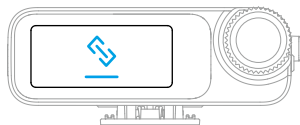
トランスミッターとレシーバーを充電ケースに入れると、自動でリンクします。

- 💡 トランスミッターのシステムステータス LED が青の場合、トランスミッターを充電ケースに入れる前にリンクボタンを 2 回押して緑に変更してください。



手作業でのリンク

1. システムステータス LED が青色と緑色に交互に点滅するまで、トランスミッターのリンクボタンを 2 秒間長押しします。
2. 受信機の画面をスワイプして、**機器リンク > +TX > TX1/TX2/TX3/TX4** をタップします。システムステータス LED が緑色に点灯しているとき、トランスミッターは受信機とリンクされています。ユーザーは受信機のインターフェースでトランスミッターのステータスを確認できます。



グループリンク

基本的なリンク（1 つのトランスミッターと 1 つのレシーバー、または 2 つのトランスミッターと 1 つのレシーバー）を完了した後、追加のトランスミッターまたはレシーバーを追加することができ、最大で 4 つのトランスミッターと 8 つのレシーバーをサポートします。

グループにトランスミッターを追加

- 方法 1：充電ケースを使用したリンク
リンクされたトランスミッターを除外し、レシーバーを充電ケースに入れたままにします。その後、追加のトランスミッターを入れて自動リンクを行います。
- 方法 2：手作業でのリンク

[「手作業でのリンク」](#)を参し、同じ操作を行ってグループにトランスミッターを追加します。

グループにレシーバーを追加

1. レシーバー画面をスワイプダウンし、「**機器リンク > +RX**」をタップします。その後、レシーバーはメインレシーバーとなり、リンクの準備が整います。
2. グループに追加する新しい受信機の画面で、**端末リンク > +グループ**をタップし、コードを確認して、**確認**をタップしてプロセスを完了します。

機器管理

コントロールメニューで**端末管理**をタップして、現在のグループ内のすべての送信機と受信機のシリアル番号、バッテリー残量を確認したり、機器を削除したりします。

詳細な指示については、リンクをクリックするか QR コードをスキャンして、チュートリアル動画 **DJI Mic 3 | グループリンク**を視聴してください。



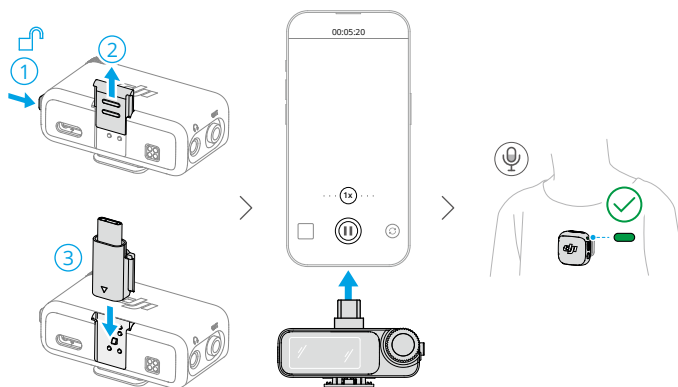
<https://www.dji.com/mic-3/video>

2.6 スマートフォンとの併用

アダプターを介してスマートフォンにレシーバーを取り付ける

レシーバーをアダプターを使ってスマートフォンに取り付け、トランスミッターを衣服にクリップまたはマグネットで取り付けます。スマートフォンはトランスミッターを通じて音声をキャプチャできます。

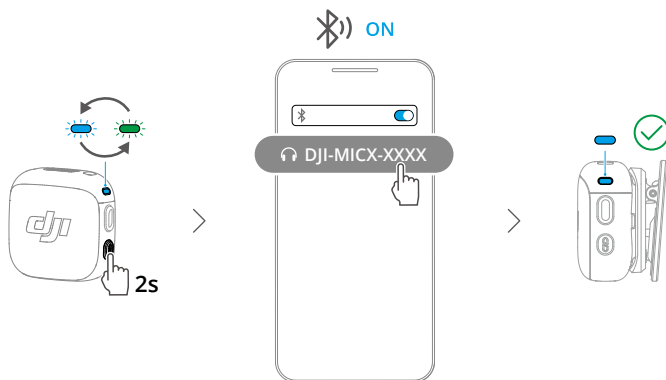
- ☀ • トランスミッターのリンクボタンを押すと、録画を開始および停止させることができます。（音量ボタンをシャッターコントロールとして使用するアプリのみ）
- 長時間の撮影やライブ配信には、レシーバーをスマートフォンに取り付けるため、アダプターの使用をお勧めします。取り付け後、充電ケーブルを使ってレシーバーを充電すると、同時にスマートフォンも充電できます。
- Lightning アダプターは別売りです。



Bluetooth 経由でスマートフォンにトランスミッターを接続する

1. トランスミッターの電源がオンになっているときに、システムステータス LED が青色と緑色に交互に点滅するまで、トランスミッターのリンクボタンを 2 秒間長押しします。
2. スマートフォンの Bluetooth を有効にして、検索された Bluetooth デバイスの中からマイクの名前を選択して接続します。トランスミッターのステータス LED が青色に点灯すると、接続は成功です。

トランスミッターは音声入力デバイスとして機能し、サードパーティ製の録音アプリケーションやライブ配信アプリケーションで 사용할 수 있습니다。

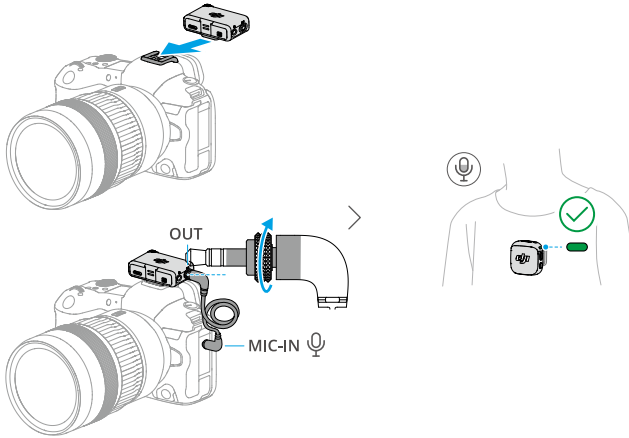


2.7 カメラとの併用

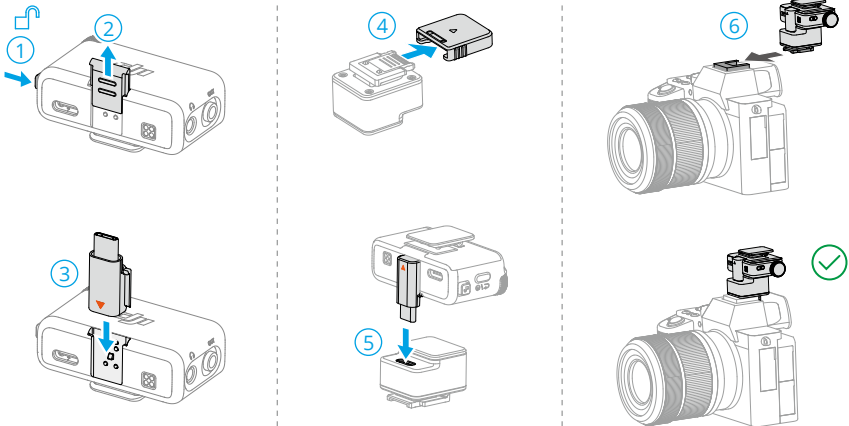
コールドシューとオーディオケーブルによる取り付け

クリップを使ってレシーバーをカメラに取り付け、音声ケーブルを接続します。トランスミッターは、カメラの音声を取り込むことができますようになります。

☀ 取り付けと接続後、<https://www.dji.com/mic-3/downloads> カメラ設定の推奨ゲインに関する説明書を参照してください。



カメラアダプターによる取り付け



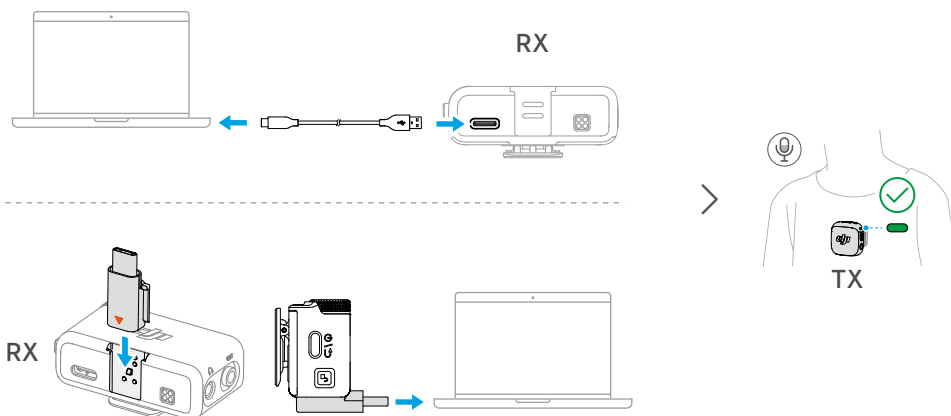
カメラに併せて自動オン/オフ

受信機の画面をスワイプダウンし、「RX 設定 > カメラに併せて自動オン/オフ」をタップして有効にします。有効にすると、カメラに接続されているときに受信機はカメラと共に自動的に電源がオンおよびオフになります。

☀ カメラが動画モードのときのみサポートされます。

2.8 パソコンとの併用

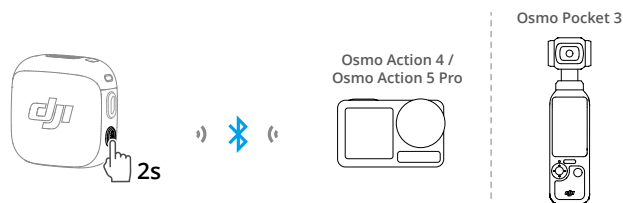
付属の充電ケーブルまたはアダプターを使用してレシーバーをパソコンに接続し、パソコンで音声入力オプションを設定します。トランスミッターを外部マイクとして使用することができます。



2.9 トランスミッターを DJI 撮影デバイスに直接接続する

トランスミッターは、Bluetooth 経由で DJI 撮影デバイスに接続できます。

Osmo Pocket 3 での操作を例として示します。使用する端末によってインターフェースが異なる場合があります。

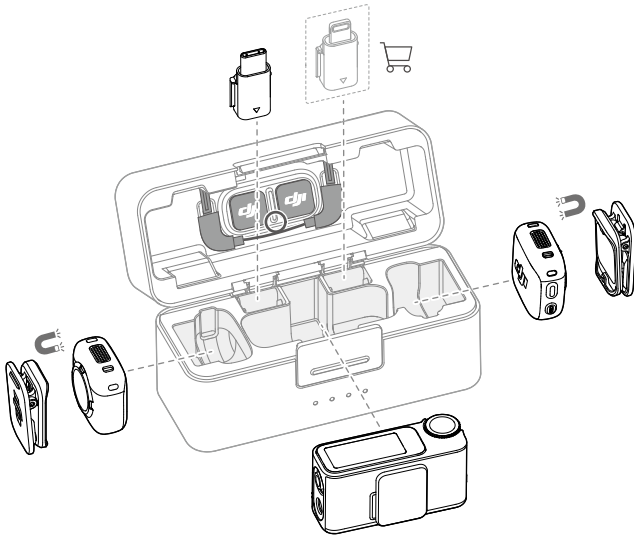


DJI 撮影デバイスのシステム設定インターフェースに進みます。**[ワイヤレスマイク]**をタップしてトランスミッターを追加します。トランスミッターのステータス LED が青色に点灯すると、接続は成功です。

トランスミッターのリンクボタンを押すと、撮影デバイスの録画を開始および停止することができます。

ワイヤレスマイクのインターフェースでスワイプダウンして、トランスミッターの音声関連パラメーターを設定します。カメラインターフェースでスワイプして、マイクのゲインとノイズキャンセリングを設定します。

2.10 ストレージ



- 💡 マグネット付きの収納スロットはクリップも保持します。
- 充電ケース内でアクセサリを重ねないようにして、受信機の画面に圧力がかからないようにしてください。

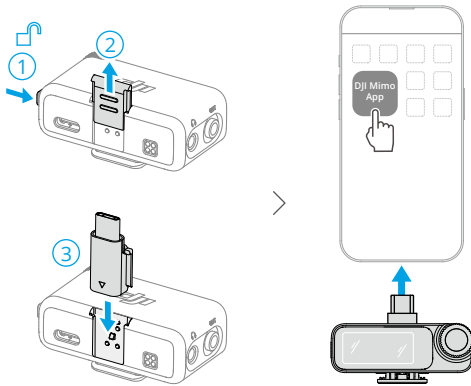
ファームウェア更新 およびパラメーター 調整

3 ファームウェア更新およびパラメーター調整

マイクを DJI Mimo アプリに接続した後、スマートフォンを使って、ファームウェアをアップデートしたり、パラメーター設定を調整したりすることができます。

3.1 DJI Mimo アプリへの接続

アダプター経由で接続



Wi-Fi 経由の接続

トランスミッターの接続

1. トランスミッターの電源がオンになっているときに、システムステータス LED が青色と緑色に交互に点滅するまで、トランスミッターのリンクボタンを 2 秒間長押しします。
2. DJI Mimo アプリを開くと、付近の利用可能なデバイスを自動的に検索します。トランスミッターが検出されたら、タップして接続します。
3. 画面の指示に従い、トランスミッターのリンクボタンを押して接続を確認します。

レシーバーの接続

1. レシーバーのホーム画面をスワイプして下に移動し、「Connect to App」をタップします。DJI Mimo アプリでレシーバーを検索して接続します。
2. 画面に認証コードが表示されたら、タップして接続を完了します。

3.2 パラメーターの調整

DJI Mimo アプリのデバイス設定インターフェイスでは、接続されたデバイスとそのバッテリー状態を表示したり、パラメーターを調整したりできます。

3.3 ファームウェアの更新

新しいファームウェアが利用可能になると、アプリのホームページの上部に通知が表示されます。タップしてファームウェアを更新してください。

現在のファームウェアバージョンを表示し、ファームウェアを更新するには、タップ・・・してください。

購入したコンボに充電ケースが含まれている場合は、アダプターまたは Wi-Fi を介して受信機を DJI Mimo アプリに接続し、通知をタップしてファームウェアを更新してください。受信機の更新が完了したら、充電ケースに戻してください。受信機はトランスミッターと充電ケースのファームウェア更新を自動的に開始します。

充電ケースをお持ちでない場合は、トランスミッターと受信機を別々に DJI Mimo アプリに接続し、通知をタップして更新してください。

付録

4 付録

4.1 仕様

仕様については、以下のウェブサイトを参照してください。

<https://www.dji.com/mic-3/specs>

4.2 アフターサービス情報

アフターサービスポリシー、修理サービス、サポートについては、<https://www.dji.com/support> をご確認ください。



連絡先

DJI サポート

本内容は予告なく変更される場合があります。
最新版は下記よりダウンロードしてください



<https://www.dji.com/mic-3/downloads>

本書についてご質問がある場合は、DJI（DocSupport@dji.com 宛にメッセージを送信）までお問い合わせください。

DJI は、DJI の商標です。

Copyright © 2025 DJI All Rights Reserved.